

Asia Indicators

発表日: 2023 年3月 10 日(金)

韓国・インフレ鈍化も目標を上回る推移が続く(Asia Weekly(3/6~3/10))

～台湾の輸出入はともに頭打ちの動きを強める展開が続いている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/6(月)	(韓国)2月消費者物価(前年比)	+4.8%	+5.1%	+5.2%
3/7(火)	(韓国)10-12月実質GDP(前年比・改定値)	+1.3%	+1.4%	+1.4%※
	(フィリピン)2月消費者物価(前年比)	+8.6%	+8.8%	+8.7%
	(中国)1-2月輸出(前年比)	▲6.8%	▲9.4%	▲9.9%
	1-2月輸入(前年比)	▲10.2%	▲5.5%	▲7.5%
	(豪州)1月輸出(前月比・季調済)	+1.4%	--	+0.9%
	1月輸入(前月比・季調済)	+4.6%	--	+5.2%
	金融政策委員会(政策金利)	3.60%	3.60%	3.35%
	(台湾)2月消費者物価(前年比)	+2.43%	+2.69%	+3.05%
	2月輸出(前年比)	▲17.1%	▲14.0%	▲21.2%
3/9(木)	2月輸入(前年比)	▲9.4%	▲9.8%	▲16.6%
	(中国)2月消費者物価(前年比)	+1.0%	+1.9%	+2.1%
	2月生産者物価(前年比)	▲1.4%	▲1.3%	▲0.8%
	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	2.75%	2.75%	2.75%

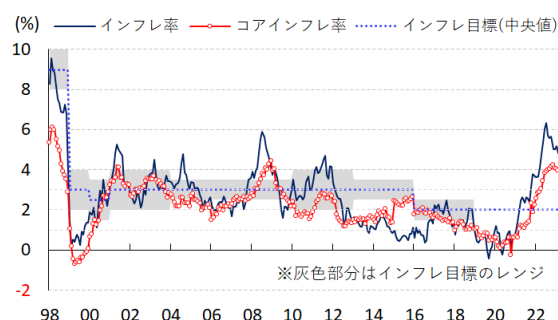
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。※は速報値

[韓国]～生活必需品の価格下落でインフレ率の伸びは鈍化するも、依然目標を大きく上回る伸びが続いている～

6日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+4.8%となり、前月(同+5.2%)から鈍化して10ヶ月ぶりに5%を下回る伸びとなるも、引き続き中銀の定めるインフレ目標(2%)を大きく上回る水準で推移している。前月比も+0.25%と前月(同+0.75%)から上昇ペースが鈍化しており、原油をはじめとする資源価格の調整の動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かっているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も落ち着いた動きをみせるなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+4.0%と前月(同+4.1%)から伸びが鈍化しているものの、引き続きインフレ目標を上回る水準で推移している。前月比も+0.33%と前月(同+0.61%)から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の下落により輸送コストに下押し圧力が掛かっているほか、国際金融市場における通貨ウォン安の一服も重なり財価格が落ち着いた推移をみせている一方、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価は上昇傾向が続いており、インフレ圧力が強まる展開は変わっていないと捉えられる。

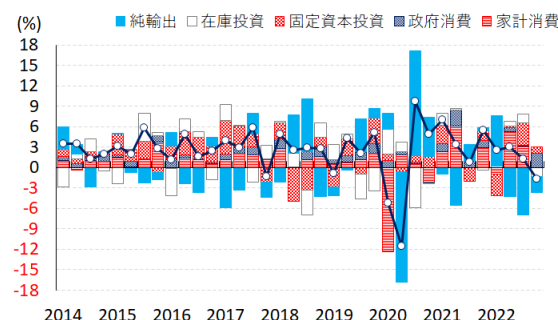
7日に発表された昨年10-12月の実質GDP成長率（改定値）は前年同期比+1.3%となり、先月発表された速報値（同+1.4%）から▲0.1pt 下方修正されている。前期比年率ベースでも▲1.61%と速報値（同▲1.49%）と同様に10四半期ぶりのマイナス成長となっているものの、マイナス幅は拡大するなど下方修正されている。家計消費や企業部門による設備投資需要などが下方修正される一方、輸出は財・サービス両面でわずかに上方修正されているものの、幅広く内需に下押し圧力が掛かっていることを反映して輸入のマイナス幅は縮小するなど上方修正されている。この結果として、純輸出の成長率寄与度のマイナス幅が縮小していることが成長率の上方修正の一因となっている。

図1 KR インフレ率の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 KR 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～幅広くインフレ圧力が後退するなか、輸出入はともに引き続き頭打ちの動きを強めている展開～

7日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+2.43%となり、前月（同+3.05%）から鈍化して2ヶ月ぶりに3%を下回る伸びとなっている。前月比も▲0.61%と前月（同+0.90%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、生鮮品をはじめとする食料品価格が下落に転じていることに加え、原油など国際商品市況の調整の動きを反映してエネルギー価格も落ち着いた推移が続くなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.55%となり、前月（同+2.98%）から伸びが鈍化している。前月比も▲0.41%と前月（同+0.89%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格が落ち着いていることを反映して輸送コストも安定していることに加え、国際金融市場における台湾ドル安の一服による輸入インフレ圧力の後退も重なり幅広く財価格に下押し圧力が掛かっているほか、春節連休の一巡を受けてサービス物価の上昇の動きも鈍化に転じるなど、幅広くインフレ圧力が後退していることが影響している。

同日に発表された2月の輸出額は前年同月比▲17.1%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲21.2%）からマイナス幅は縮小している。しかし、前月比は▲7.7%と前月（同+4.2%）から2ヶ月ぶりの減少に転じているほか、中期的な基調も減少で推移するなど頭打ちの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、化学製品や鉱物資源関連の輸出に底堅い動きがみられる一方、機械製品関連や金属関連などの輸出額に下押し圧力が掛かったことが全体の重石となっている。国・地域別でも、中国本土向けをはじめとするアジア新興国向けに底打ち感が出る動きがみられる一方、米国や欧州、日本といった先進国向けが軒並み下振れしていることが輸出全体の足かせとなっている。一方の輸入額は前年同月比▲9.4%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲16.8%）からマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は▲4.0%

と前月（同+7.7%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きが続いている。輸出の頭打ちが続いていることを反映して素材、及び部材に対する需要が弱含んでいることに加え、国際商品市況が調整していることも輸入額の重石になっている。結果、貿易収支は+23.50億ドルと前月（+23.43億ドル）からわずかに黒字幅が拡大している。

図3 TW インフレ率の推移

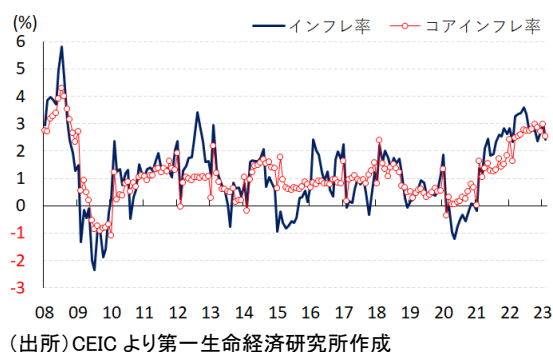
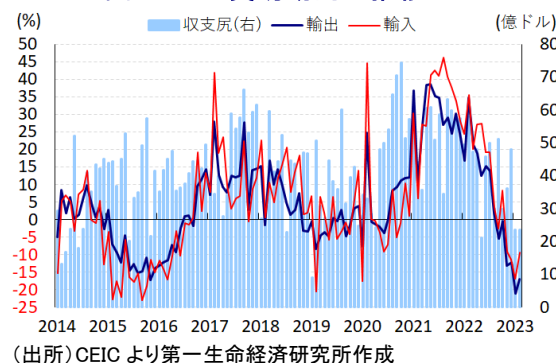


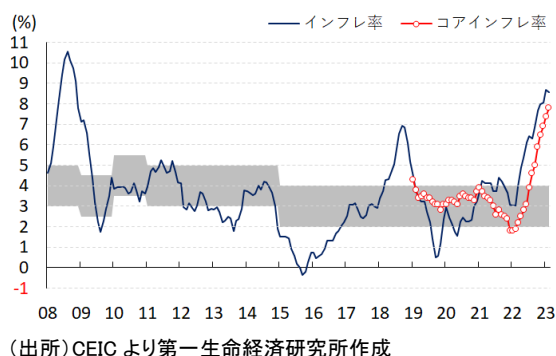
図4 TW 貿易動向の推移



[フィリピン]～インフレ率はわずかに伸びが鈍化も、コアインフレ率は加速が続くなど物価を巡る状況は変わらず～

7日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+8.6%となり、前月（同+8.7%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比も+0.00%と前月（同+1.68%）から上昇ペースが鈍化しており、生鮮品をはじめとする食料品価格が下落に転じているほか、原油をはじめとする国際商品市況の頭打ちの動きを反映してエネルギー価格の上昇ペースも鈍化するなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+7.8%と前月（同+7.4%）から加速しており、現行基準の下で最も高い伸びを更新する展開が続いている。前月比も+1.01%と前月（同+0.34%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の鈍化の動きを反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、国際金融市場における通貨ペソ安の動きに一服感が出るなど輸入インフレ圧力も後退しているものの、財価格に押し上げ圧力が掛かる展開が続いているほか、経済活動の正常化の動きを反映して幅広くサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるなど、インフレ圧力がくすぶる展開が続いている。

図5 PH インフレ率の推移



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

